

《在宅は常に後回し、なのに常に最前線》 「ワクチン格差調査」結果発表

～ コロナ禍における居宅系（訪問・通所）従事者への処遇について～

ACT たすけあいワーカーズ・コレクティブ連合（東京都中野区、代表：土田さち子）は、ワクチン接種に関して介護従事者間の格差を問題提起するため、「ワクチン格差調査」を立ち上げ、SNS を使って広く全国の訪問・通所の居宅系従事者を対象にアンケート調査を行いました。その結果として、以下のことがわかりました。詳しくは下記の HP を御覧ください。

【URL】<http://tasukeaiworkers-rengo.jimdofree.cim/>

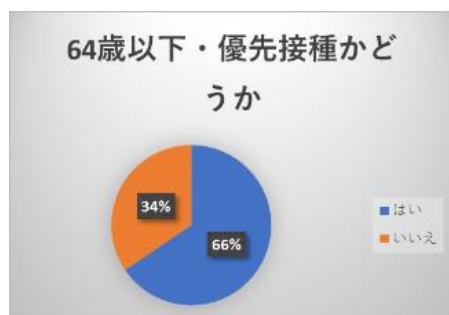


調査結果トピックス

1. 居宅系従事者にのみ求められた条件付き優先接種
2. 副反応やワクチンへの不安
3. 陽性患者ケアの不足

1. 条件付きでしかも遅い“優先接種”

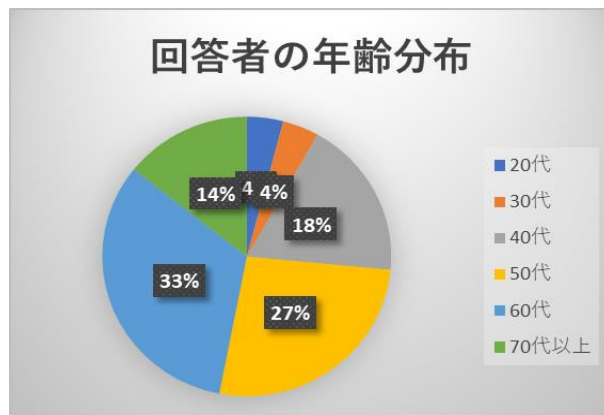
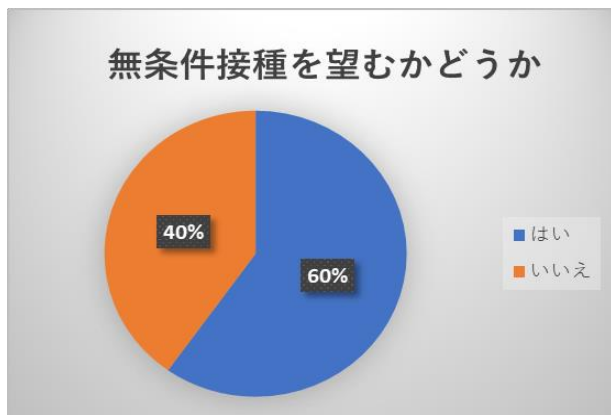
3月3日の厚労省通知は自治体の裁量に任せるとしながらも、居宅系従事者に対してのみ、自宅療養中の陽性患者さんのケアに入る意向確認を求めた。施策への不満や怒りがアンケートの自由記述に多く見られた。また、順番がなかなか回ってこず、64歳以下の4割近くが大規模や職域を利用している。しかしながら、回答の88%が東京都を占め、少なくとも33自治体（全体の67%）が独自の無条件接種（「東京都23区・26市の優先接種実施状況調査」HP参照）を行ったため、実際にケアに入る意向確認を求められたのは5件と非常に少なかった。全国規模の検証が必要である。



「ワクチン格差調査結果グラフ化 HP 参照」Q6 の回答結果より

2. 予想外に多かった副反応やワクチン自体への不安

必要であれば、利用者が陽性患者さんであろうと、その家族が濃厚接触者であろうとケアに入らざるを得ない職種の性格上、即時の無条件接種を望む方が多いと想定していたが、下図にある通り、4割が接種そのものに慎重な姿勢を示した。その理由として、「アンケート結果グラフ化」Q8 の回答結果に示した通り、持病やアレルギー、副反応への不安などが挙げられている。また、別表に示した通り、その年齢分布は全体のそれと大きな差異は見られなかった。



3. 陽性患者ケア訓練の不足

最もショッキングだった自由記述の回答は、「自分の子どもが12歳以下で接種を受けられない。訪問ヘルパーの自分が接種を受けると陽性患者さんのケアに行かされる。自分が感染して子どもに感染させないか、とても不安。だから接種を受けない」というものであった。その背景には、陽性患者さんへのケアの前提として、ワクチン接種だけでなく、在宅でのゾーニングや防護服の着脱場所など感染症防護の訓練が絶対的に不足していることがある。



防護エプロンの着脱訓練 (Be すけっと)

【調査概要】

調査名: ワクチン格差調査

調査対象: 全国の居宅系介護従事者

調査期間: 2021年6月23日~8月15日

調査方法: Twitter にGoogleフォームをリンク

====対象者: 属性詳細=====

[年代]20代 2名、30代 16名、40代 45名、50代 89名、60代 144名、70代以上 51名 不詳 2名
合計 349名

=====

ACTたすけあいワーカーズ・コレクティブ連合

都内の34のワーカーズが2016年に集まり、連合を結成しました。介護事業や障害者支援、子育て支援、地域での居場所づくりなど地域で必要とする事業を自分たちで立ち上げ、運営しています。それぞれのワーカーズは昨年12月に成立した労働者協同組合法のはるか昔、30年前から活動を展開しています。



様々なワーカーズの活動



Next



さざんか

らいふえいど



パステル



【団体概要】

団体名: ACTたすけあいワーカーズ・コレクティブ連合

所在地: 〒164-0012 東京都中野区本町 2-51-10 OKビル4階

代表者: 土田 さち子

設立: 2016年

URL: <http://tasukeaiworkers-rengo.jimdo.free.cim/>

actrengo@gmail.com

【本リリースに関する報道問い合わせ先】

ACTたすけあいワーカーズ・コレクティブ連合 副代表 三好亜矢子

TEL: 090-3523-3274

e-mail: nigori3389@yahoo.co.jp

